

第29回 日本看護福祉学会学術大会

『地域で創る認知症ケアのあり方』に参加しました。

開催日：平成28年6月25日（土）

会場：畿央大学

「患者の個人差に配慮して、最適な医療を提供するテーラーメイドな認知症ケア」を考えるシンポジウムが行われました。

認知症看護認定看護師である当院の西千亜紀看護師がシンポジストでした。まず、入院治療の立場から、認知症高齢者の総合ケア体制を構築してきたという説明がありました。次に、退院後、自宅に戻っても、地域で安心して暮らせるために、当院が取り組んでいるクリティカルパスによる、認知症の程度と随伴する症状の有無から、容態に応じた適切なサービス提供の流れを示す認知症の人の生活を支える仕組みと併せて、国が掲げる「新オレンジプラン」の制度を基盤とした当院の役割が伝えられました。西看護師の在宅生活を見据えた医療・介護等のサービスを繋ぐ、当院のサービス利用の話から、「地域の方の自立を支援する」という理念を持つ医療機関であることを皆さんに知っていただけたのではないかと感じました。

認知症の人と家族の会の木村さんは、認知症の人への理解を地域で広げることのお話でした。木村さんは、物忘れ相談窓口「オレンジドア」を開設され、「勇気、元気、陽気」を心がけておられ、家族支援の大切さを伝える活動をされてるということでした。

若年性認知症サポートセンター『きずなや』の若野さんは、認知症の人の思いを支える企業とのコラボレーションにより、認知症の人が働く環境を中心に考えた地域づくりを行っておられます。経済活動としても成功した他業種連携による地域活性化であり、公費にばかりに頼れない地域包括ケアシステムの時代を見据える活動であると感じました。

今回のシンポジウムでは「地域で創る」という大きなテーマがありました。そこに参加させていただき、医療・介護現場の看護師として、認知症ケアを地域で支える役割があるのだと、あらためて実感しました。また、他業種、多職種連携という視点を常に持ち、患者さんの自立を支援するための医療・介護のサービスをテーラーメイドで提供することができるケアチーム作りに活かせればと考えています。

